

第2回国際シンポジウム

子宮頸がん予防の戦略： 検診とワクチン

-教育と啓発による女性の認識向上を目指して-

第1部：検診

Professor Eduardo Franco (13:10-13:40)
Director, Division of Cancer Epidemiology,
Chairman, Department of Oncology, McGill
University, Canada

子宮頸がん検診のパラダイムシフト：
細胞診からHPV検査へ

Dr. Kate Simms (13:40-14:05)
Cancer Research Division, Cancer Council
NSW, Sydney New South Wales, Australia
子宮頸がん予防: 数理モデルを用いた公衆衛
生政策

Ms. Louise Cadman (14:05-14:30)
Research Nurse Consultant
Wolfson Institute of Preventative Medicine
Queen Mary University London
パップスメアからコルポスコピーまで：英国
での子宮頸がん検診における看護師の役割

休憩: 14:30-14:40

第2部：ワクチン

A/Prof Julia Brotherton (14:40-15:05)
Medical Director, Australian National
HPV Vaccine Program Register (VCS)
オーストラリアでのHPVワクチン接種プログラ
ムの成功：国民の理解とワクチンを支える公衆
衛生の実践の重要性

Dr. Saidatul Norbaya Buang (15:05-15:30)
Chief Senior Assistant Director,
Family Health Development Division,
Ministry of Health, Malaysia

学校単位でのHPVワクチン接種プログラム：
なぜマレーシアでは成果を上がっているのか

Mr. Tandin Dorji (15:30-15:55)
Chief, Healthcare and Diagnostics Division,
Dept. of Medical Services, Ministry of Health, Bhutan
HPVワクチンの定期接種プログラムへの導入：
ブータンでの成功

休憩: 15:55-16:05

Dr. Palle Valentiner-Branth (16:05-16:30)
Head of Surveillance, Infectious Disease Epidemiology
& Prevention, Statens Serum Institut, Denmark
デンマークにおけるHPVワクチン接種プログラム

Dr. Brenda Corcoran (16:30-16:55)
Director, National Immunisation Office,
Health Service Executive, Ireland
HPVワクチン—フィクションと事実を区別する：
アイルランドの例

A/Prof Sharon Hanley (16:55-17:20)
Dept. Women's Health Medicine, Hokkaido University
日本における子宮頸がん予防一前進しているのか、
それとも後退しているのか

日時：2017年8月25日(金) 13:00～17:30

(受付12:30開始)

会場：北海道大学学術交流会館 2F講堂

(〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目)

入場：無料 (同時通訳有り)

主催：北海道大学大学院医学研究院総合女性医療システム学分野, 科学研究費補助金 (代表 Sharon Hanley)

共催：北海道大学大学院医学研究院

参加をご希望される方は参加申し込み書にご記入の上、お申込みください。

2017年8月25日第2回国際シンポジウム 子宮頸がん予防の戦略：検診とワクチン 参加申込

- お問い合わせ：北海道大学大学院医学研究院総合女性医療システム学分野, Sharon Hanley (hvpss@med.hokudai.ac.jp)
- FAX 011-706-7711
- 北海道大学大学院医学研究院総合女性医療システム学分野 行き

ご参加の方は以下にご記入の上8月24日(木)までにFAXにてご返送ください

ご所属		人数	
お名前			
ご同伴者 お名前			
TEL		FAX	

